

25 第5章－1 室町幕府の成立(1) (教p.120～123)

- 1 後嵯峨上皇の死後、皇室は皇位の継承や天皇家領荘園の相続などをめぐって分裂した。そのうち**後深草上皇の系統**を何というか。
- 2 1に対して、**龜山天皇の系統**を何というか。
- 3 幕府による調停の結果、2つの系統が交代で皇位につく方式がとられるようになった。この方式を何というか。
- 4 執権**北条高時**のもとで、**内管領**として幕府の実権を握っていた人物は誰か。
- 5 **後醍醐天皇**の討幕計画は2度とも失敗した。1回目の討幕計画を何というか。
- 6 5が勃発したのは西暦何年のことか。
- 7 また、2回目の討幕計画を何というか。
- 8 鎌倉幕府が滅亡したのは西暦何年のことか。
- 9 8の年に鎌倉を攻め落とした武将は誰か。
- 10 同じく六波羅探題を攻め落とした武将は誰か。
- 11 **建武新政府**の主要機関の1つで、重要政務を担当した機関は何か。
- 12 建武新政府の主要機関の1つで、所領関係の裁判を担当した機関は何か。
- 13 北条高時の子**時行**が、鎌倉幕府の再興をめざしておこした反乱を何というか。
- 14 13が勃発したのは西暦何年のことか。
- 15 京都を制圧した10によって、1336年に擁立された天皇は誰か。
- 16 **1336年**に、10が発表した政治方針を何というか。
- 17 10が征夷大將軍に任じられ、新しく幕府を開いたのは西暦何年か。
- 18 **1350～52年**にかけて、北朝方の内部で激しい対立・抗争が続いた。それは何か。
- 19 後醍醐天皇に仕えた南朝方の政治・軍事の中心的存在であり、『**神皇正統記**』や『**職原抄**』などを著したのは誰か。
- 20 このころ、武家社会で一般的になった所領の相続方法を何というか。

補充・復習

- ア 後醍醐天皇の系統は何か。
- イ 後醍醐天皇による2度目の討幕計画は西暦何年のことか。
- ウ イの年に、北条高時によって擁立された天皇は誰か。
- エ 赤坂城や千早城で幕府軍と戦い、建武の新政実現にも貢献した河内の豪族は誰か。
- オ 建武新政府の職制のうち、関東地方を管轄する機関を何というか。
- カ また、東北地方を管轄する機関を何というか。
- キ 建武新政府の主要機関の1つで、京都の治安維持のためにおかれた警備機関は何か。
- ク 建武新政府の主要機関の1つで、建武政権に味方した武士の恩賞事務を取り扱った機関は何か。
- ケ 南北朝の対立は西暦何年から始まったか。
- コ 『建武年間記』には、建武新政下の混乱ぶりを風刺した88句からなる長詩がある。鴨川の河原に貼り出されたといわれるこの長詩は何とよばれるか。
- サ 初代将軍の弟で、兄とともに建武新政府に反し、幕府の創設につくしたのは誰か。
- シ 初代将軍の執事として幕政に参加し権勢をふるったが、のちに**サ**と対立するようになった人物は誰か。

●らくらくコーナー _____ []に適語を記入して活用しましょう。

1324年[]=一味に知られて大失敗
1 3 2 4

1331年[]=一味が再度の勝ち名乗り
1 3 3 1